

2024年3月26日

アメリカ教育学会

会報第51号 (2024 No.051)

発行／アメリカ教育学会事務局

E-mail : jaaes.since.1989@gmail.com

[contents : 2023年度理事会・総会報告、第35回大会報告、第36回案内、事務局より]

－ 代表理事挨拶 －

松下 晴彦

会員の皆様におかれましては、日頃より本学会の活動にご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

昨年4月より、新しい運営体制となり1年を経過するところとなりました。この間、学会活動の中心である研究大会につきましては、第35回研究大会を昨年11月4日(土)に関西学院大学上ヶ原キャンパスにて開催することができました。実に5年ぶりの対面での研究大会でしたが、自由研究発表、公開シンポジウムともに若手研究者からベテラン研究者まで多くの会員の皆様にご参加いただき盛況のうちに閉会することができました。大会開催の準備と運営に大変なご尽力をいただいた宮本会員をはじめ関西学院大学他の皆様には心より感謝申し上げます。

研究大会にあわせて開催されました総会につきましては、大会校のご配慮によりハイブリッドで執り行うことができました。総会では、定例の審議事項に加え、機関誌投稿要領、機関誌編集に関する規程、アメリカ教育学会賞・研究奨励賞規程他について、審議し承認をいただきました。既にご承知おきかと思いますが、これらの規程改正により、学会の機関誌への投稿は、これまで事前にエントリーをする必要がありましたが、これを原稿の提出に一本化し、また投稿締切日を毎年3月20日としました。会員の皆様の間で周知の程よろしく願いいたします。またこれまでの学術図書等を対象としたアメリカ学会賞に加えて、本学会機関誌に掲載された自由研究論文を対象としたアメリカ教育研究奨励賞を新たに開設しました。文字通り、会員の皆様の研究の励みとなることを願ってやみません。

次回の研究大会は、長嶺会員を中心に埼玉大学での開催(2024年11月2日(土)予定)をお願いいたしました。既に大会準備状況のご報告をいただいておりますが、基本的には対面で、一部ハイブリッドでの開催ということで、海外・遠隔での参加も可能となる企画とお聞きしております。これまでに増して多くの皆様のご参加を期待しております。

今年2月18日には、恒例の教育セミナーをオンラインにて開催し、2023年度アメリカ教育学会賞を受賞された宮野会員による「ウィネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程」についての基調報告、次に指定討論として鈴木会員からのリアクションを交えて活発な討議を展開しました。20世紀初頭のアメリカの革新主義の時代を背景とする教師の自己啓発的で実験的な研修プログラムともいえる歴史研究が中心でしたが、教師の養成や教師教育、専門職としての教師の専門性を構成するものなど今日、私たちが共有し政策として前に踏み出していくべき重要な実践的テーマについて議論できたのではないかと実感します。

ところで、本学会員は、アメリカ学とかアメリカ教育学というディシプリンを志向して集っているわけではありませんが、基盤とするディシプリンは多様でありつつ、アメリカの歴史と現在そして未来を見据えた可能性から学び、それらを媒介として自らを省察するという点では一致しているかと思えます。さて、今年は大統領選挙の年です。予期しない大きな出来事が起きかねない年です。いろいろな意味での分断化が顕在化したというなかで、人々はどのような選択をするのでしょうか。二大政党の政策志向による単純な理解は時代遅れとなりましたが、それでも、大統領選挙を契機に、それまで潜在的だったものが可視化されることがあります。さまざまな分断化や格差化のなかで、実際のところ人々の生活には何が起きているのか、困難な状況に人々はどのように反応しようとしているのか、不可視の次元を少しでも可視化し、それをある枠組みのもとで整合的に説明していくこと、これらは私たちの重要な課題であり視点の一つであり、会員の皆様とともに注視していきたいと思えます。

最後に、黒田事務局長をはじめ研究推進委員会幹事の鈴木会員、機関誌編集委員会幹事の藤村会員には、ご多忙のなか本学会の円滑な運営にご尽力をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。本学会は比較的小規模な学会ですが、研究活動に取りかかるときの目的と情熱、真摯な姿勢において、中身の濃い研究交流の場であり充実したアソシエーションであり続けたいと思えます。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いします。

－ 2023年度 理事会・総会報告 －

2023年度の理事会は、2023年11月4日（土）に実施された。総会は、第35回学会大会にあわせて、現地・オンラインで開催された。また、2024年2月18日（日）にオンラインにて臨時理事会が開催された。下記の議題について、報告および審議され了承された。

1. 会務報告について

(1) 現況報告：会員総数 171 名（一般会員 155 名、学生会員 16 名）（2024年3月1日現在）

2023年度新規入会 2 名（一般会員 2 名）

新規入会者（入会届受理順）	推薦者
長沢 誠（埼玉大学）（一般会員）	阿曾沼 明裕（東京大学）
北田 佳子（埼玉大学）（一般会員）	黒田 友紀（日本大学）

2023年度末をもって退会希望者 3 名、2023年度末で強制退会者 5 名

(2) 2023 年度事業報告

(ア) 機関誌『アメリカ教育研究』第 34 号発行 (2023 年 12 月 30 日、東信堂)

(イ) アメリカ教育学会教育セミナー (オンライン) (2024 年 2 月 18 日)

(ウ) 理事会開催 (オンライン: 2023 年 11 月 4 日)

臨時理事会開催 (オンライン: 2024 年 2 月 18 日)

(エ) 会報第 50 号 (2023 年 5 月 30 日) の発行

(3) 第 35 回大会 (2023 年度) について 資料 1 (4~6 頁)

宮本健市郎大会準備委員長より、理事会・総会にて第 35 回大会の準備・運営について報告がなされた。また、臨時理事会にて、大会・会計報告が行われた。

(4) J-STAGE の掲載状況

2023 年度内に『アメリカ教育研究』33 号、『アメリカ教育学会紀要』20、22、23 号が掲載予定であることが報告された。 ※2024 年 3 月に J-Stage に掲載されました。

2. 審議事項

(1) 今期の体制について

松下代表理事より、今期の体制について報告され、承認された。

※承認された今期体制については、学会 HP「組織運営」に掲載されております。

(2) 規程の改正について

松下代表理事および事務局より、以下の規程の新設/改訂の提案がなされ承認された。

(ア) 機関誌編集に関する規程 (案)

(イ) 『アメリカ教育研究』掲載の論文等の著作権に関する規程 (案)

(ウ) 機関誌投稿要領 (案)

(エ) アメリカ教育学会賞規程 (案)

※承認された規程は学会 HP に掲載されております。

(3) 学会機関誌『アメリカ教育研究』第35号 (2024年度) について

機関誌に関する規程が変更されたため、第35号の原稿〆切が3月20日 (水) となった。

会員に周知し、多くの投稿をお願いしたい。

(4) 2023年度アメリカ教育学会賞・表彰

八尾坂学会賞選考委員長より、宮野尚会員 (信州大学) の著書『ウィネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程』が学会賞候補として提出され、審議の結果、了承された。

総会では、学会賞授与式が行われた。

(5) 2023年度アメリカ教育学会教育セミナーについて

2024年2月18日 (日) 13時~14時40分にオンライン (Zoom) にて開催、宮野尚会員に御登壇頂くことが提案され、審議の結果、了承された。

※以下のとおり、2024年2月18日 (日) にオンライン (Zoom) にて開催された。

報告者: 宮野 尚 (信州大学教育学部)

指定討論者: 鈴木 悠太 (東京工業大学)

司 会: 澤田 稔 (上智大学)

報告題名：ウィネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程

—20世紀前半のアメリカにみる教師教育の高度化—

(6) 2022年度会計報告および2023年度予算書（案）について

事務局より、2022年度会計報告と、2023年度予算案（本紙7頁）の報告がなされ、承認された。

(7) 2024年度第36回大会について

第36回研究大会は、埼玉大学教育学部にて11月2日（祝）に開催されることが報告された。

(8) 2024年度アメリカ教育学会賞・研究奨励賞の公募について *臨時理事会

改定された規程のもと、事務局より、次年度5月のアメリカ教育学会賞・研究奨励賞の公募について、公募・推薦書を改訂する提案があり、5月末に会員に配布して広くアメリカ教育学会賞・研究奨励賞を募ることで了承された。また、研究推進委員が学会賞選考委員を兼ねることが提案され、承認された。

<資料1>

— 第35回大会報告 —

アメリカ教育学会第35回大会は、2023年11月11日（土）に、関西学院大学上ヶ原キャンパスにて現地開催されました。

◇大会日程 2023年11月11日（土）

自由研究発表	10:00～12:15
総会	13:10～14:10
公開シンポジウム	14:20～16:40
情報交換会	17:00～18:00

◇自由研究発表（10:00～12:15）

自由研究発表Ⅰ 【司会】長嶺 宏作（埼玉大学）・倉本 哲男（静岡文化芸術大学）

○八尾坂 修（玉川大学）

米国都市部のニーズの高い学校における教員の離職・定着と学校組織環境との関係性

○寶來 敬章（高田短期大学）

刑務所内チャータースクールにおける教育実践

○小島 佐恵子（玉川大学）

アメリカの大学における専門職員は学内でどのように認識されているのか

—student affairs を中心に—

○西村 史子（共立女子大学）

フロリダ州にみる universal education choice の完成

○新谷 龍太郎（同志社女子大学）

米国インクルーシブ保育のアカウンタビリティ
全体討議

自由研究発表Ⅱ 【司会】澤田 稔（上智大学）・中野 真志（愛知教育大学）

○森 久佳（京都女子大学）

デューイ実験学校に対する批判的考察の意義と可能性

—歴史的な神話の視点を踏まえた「実験」の意義の再評価を志向して—

○宮野 尚（信州大学）

1910年代のウィネトカ公立学区における教育改革の構想

—教育委員のバックグラウンドに注目して—

○岩田 弘志（NPO 法人熊本オルタナティブ教育協会）

ホームー T. レーンの少年感化院教育が1960年代フリースクール運動に与えた影響

○黒田 友紀（日本大学） ○宮古 紀宏（国立教育政策研究所）

米国の学校アカウンタビリティにおける「学校風土」に関する研究

全体討議

◇公開シンポジウム

テーマ：アメリカの環境教育の歴史と現状と課題：学校教育に何ができるか

【趣旨】

環境問題が深刻さを増している。環境汚染、生物多様性の危機、地球温暖化、巨大ハリケーンの襲来など、人類は存続すら危ぶまれる状況に直面している。「持続可能な開発目標 (SDGs)」や「持続可能な開発のための教育 (ESD)」が注目されるようになっているのは、危機感の現れといえるが、それが状況の改善に必ずしもつながっていない。地球温暖化はとどまりそうになく、それどころか、SDGsは、「目下の危機から目を背けさせる効果しかない。…苦悩を和らげる大衆のアヘン」（斎藤幸平）と断言する人もいる。環境問題は次の世代になるほど深刻さを増す。したがって、次の世代を育てることに取り組んでいる現代の教育者は、子どもがよい環境の中で生きていけるようにするために、その責任を果たさなければならない。

では、私たちは次の世代にどのような環境を残そうとしているのだろうか。本シンポジウムでは、アメリカにおける環境教育の歴史と現状を紹介し、現代における環境教育の課題について議論してみたい。

広大で豊かな自然に恵まれたアメリカは、フロンティアを開拓しつつ国家を作り上げた。自然は克服の対象であった。トランプ前大統領がパリ協定から離脱したことに見られるように、自然は利用すべきものであって、環境問題を軽視する考え方は、いまま国内には根強くある。その一方で、自然保護のための運動は、アメリカでも19世紀から始まっていた。1872年に世界最初の国立公園法が制定され、その後、自然や動物を保護しようとする市民運動は、20世紀になると徐々に高まっていった。

この二つの方向を、自然を利用するか、保護するか、という二者択一思想としてとらえてはならない。自然のなかで、人間がどのように生きていくかという課題とつなげて考えなければならない。それは、環境倫理ということになるであろう。学校教育のなかで環境倫理がどのように構想され、教えられてきたのか。その歴史と現状と課題について、アメリカの環境教育に関心を持っている3名の研究者から問題を提起していただく。それを起点として議論を深めていきたい。

【提案者】

荻原 彰（京都橘大学）	学力重視の教育改革と環境教育
加藤 智（愛知淑徳大学）	総合的な学習の時間と環境教育
宮本 健市郎（関西学院大学）	環境教育の起源としての自然学習

【司会】

大倉 健太郎（武庫川女子大学）
湯藤 定宗（玉川大学）

<資料2>

アメリカ教育学会 2022年度会計決算報告書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部		(円)		
項 目	予 算	決 算	比較増減	
学会費・入会金	900,000	871,000	-29,000	
紀要論文掲載協力金	10,000	5,000	-5,000	
預金利息	5	6	1	
前年度繰越金	991,799	991,799	0	
合 計	1,901,804	1,867,805	-33,999	

支出の部		(円)		
項 目	予 算	決 算	比較増減	
アメリカ教育研究印刷費 第33号	300,000	300,000	0	
事務局 経費	庶務費	120,000	130,482	10,482
	通信費	100,000	133,826	33,826
	謝金	10,000	0	-10,000
	HP維持管理費	75,000	62,700	-12,300
大会開催費補助	200,000	76,748	-123,252	
アメリカ学会賞報奨金・賞状	35,000	32,811	-2,189	
教育関連学会連絡協議会年会費	10,000	10,000	0	
J-stage掲載費	150,000	115,885	-34,115	
予備費	901,804	0	-901,804	
次年度繰越金※	0	1,005,353	1,005,353	
合 計	1,901,804	1,867,805	33,999	

※次年度繰越金計算式は以下の通り

2022年度決算収入合計 876,006円 - 2022年度決算支出合計 862,452円 = 13,554円
前年度繰越金 991,799円 + 2022年度収支 13,554円 = 次年度繰越金 1,005,353円

以上の通り報告いたします アメリカ教育学会事務局(会計) 黒田 友紀 (印省略)

厳正な監査の結果、以上の通り相違ありません
アメリカ教育学会会計監査委員 遠座 知恵 (印省略)

アメリカ教育学会 2023年度予算書(案)
(2023年4月1日～2024年3月31日)

収入の部		(円)	
項 目	予 算	備 考	
前年度繰越金	1,005,353		
学会費・入会金	840,000	6,000円×140名(納付率85%)	
紀要論文掲載協力金	20,000	5,000円×4名	
預金利息	5		
合 計	1,865,358		

支出の部		(円)	
項 目	予 算	備 考	
アメリカ教育研究(第34号)印刷費	300,000		
事務局経費	庶務費	100,000	
	通信費	80,000	
	謝金	10,000	
	HP維持管理費	80,000	
大会開催費補助	200,000		
アメリカ学会賞報奨金・賞状	35,000		
教育関連学会連絡協議会年会費	10,000		
J-STAGE掲載費	120,000		
予備費	930,358		
合 計	1,865,358		

－事務局より－

◆アメリカ教育学会第 36 回大会について

日 時：2024 年 11 月 2 日（祝・土）

会 場：埼玉大学大久保キャンパス

2024 年度のアメリカ教育学会第 36 回大会の実行委員長をつとめます埼玉大学の長嶺宏作です。第 36 回大会は埼玉大学において、11 月 2 日（土・祝）に開催を予定しています。北浦和駅・南与野駅からバスで 20 分～30 分程度かかりますが、参加をお待ちしております。大会の日程ですが、午前中に公開シンポジウムを行い、午後に自由研究発表を予定しています。基本的には対面ですが、1 会場はハイブリッド開催にして、遠方からも参加できるように考えています。

※詳細につきましては、学会メーリングリストなどを通じてお知らせします。

◆会費納入について

会費につきましては、できるだけ各年度内の納入をお願い致します。本学会の諸事業は、みなさまの会費を財源として行われております。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。会費納入についてご不明な点がある方や、受領証などを必要な方は、学会事務局までメールにてご連絡くださいませ。

※2017 年度会計年度より、会費年額 6,000 円（学生会員は 5,000 円）となっております。

◆会員の情報の変更・更新のお願い

所属やメールアドレス等の会員情報に変更がある／4 月以降に変更のある会員は、当学会ホームページより「会員情報変更届」をダウンロードしていただき、アメリカ教育学会事務局へ E-mail（あるいは郵送）にてお知らせください。

当学会は、ペーパーレス化を進めております。そのため、学会事務局からの連絡につきましては、2016 年度より各会員に登録いただいているメールアドレスへメーリングリスト（ML）による一斉配信をしております。会報につきましても、2019 年度より学会 ML にてご案内をしております（会報は、従来通り、学会ホームページにも掲載しております）。メールアドレスを登録しているのに学会事務局からの ML のメールが届いていないという方は、学会事務局までご連絡くださいませ（また、「迷惑メールフォルダ」に学会 ML のメールが届いている場合がございます。ご確認頂けますと幸いです）。

◆学会ウェブサイト・ブログ URL のお知らせ

アメリカ教育学会では、各種情報をウェブサイト及びブログで情報発信しております。ぜひご覧くださいませようよろしくお願い致します。

アメリカ教育学会ウェブサイト：<https://www.jaaes.org/>

アメリカ教育学会ブログ：<http://blog.livedoor.jp/jaaes/>

【お問い合わせ先】

アメリカ教育学会事務局 E-mail : jaaes.since.1989@gmail.com

※2023年度より学会事務局住所が変更しております。

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1

日本大学理工学部 一般教育 黒田友紀研究室 気付

以上